

■令和6年度第3回会津美里町高田地域まちなか賑わい創出協議会 開催記録

日 時:令和7年2月6日(木)18:30~21:00

場 所:会津美里町役場 2階 大会議室

出席者:9名/17名

事務局:4名、コンサルタント:2名(オンライン参加)

## 1 開会

## 2 委員長あいさつ

## 3 報告事項

先進地視察（須賀川）について事務局より報告した。

## 4 協議事項

### (1)高田地域まちなか賑わい創出基本計画(案)について

基本計画（案）について、事務局より1章から順に説明し、内容について協議した。

#### ○委員長

- ・ KPI の設定が高すぎると現実性がないのではないか。現在のイベント開催回数を最大値にする程度ではないか。
- ・ 月1回のマルシェ開催は難しいだろう。誰がやるのか。
- ・ 新規出店は5年で2件が現実的ではないか。

#### ○事務局

- ・ 現実的な数字に下方修正する。イベント開催数は現状2回、中間年の令和11年は現状の倍程度として4回、10年後の令和16年は6回とします。新規出店者数については、現状は0件、令和11年は2件、令和16年は4件とします。歩行者通行量（美里蔵周辺）は、現状は16人、令和11年は24人、令和16年は32人とし、イベント開催時の通行量は、現状は6,000人、令和11年は7,500人、令和16年は9,000人とします。

#### ○委員長

- ・ p5、2段落目、「町全体の人口の57.3%弱を占め…」の「弱」が不要。

#### ○委員長

- ・アンケート結果から取組として「チャレンジショップ」が出てきていると思われる。ワークショップではあまり出てこなかったように思うが、チャレンジショップをやる需要はどれくらいあるのか。視察に行った須賀川でもチャレンジショップの物件が全て埋まっているわけではなかった。オープンの時は全部埋まっていますが、2年目以降空く懸念がある。
- ・チャレンジショップの魅力は、小さなスペースでも色んなショップが空きなく入っていること。売る側にとっても魅力だし、人も来たいと思える。逆に、すかすかになると、売る側もかわいそうだし、お客さんはマイナスイメージを持つと思う。
- ・基本計画ではチャレンジショップをメインにとりあげているので、その点はどう考えているのか。
- ・美里蔵周辺をみんなのサードプレイスにしようとの計画だが、チャレンジショップがダメになった場合、エリアプラットフォームの拠点がぽつんと置かれることになる。それがサードプレイスと言える場所となるのだろうか。これだから人が来るという説得力にかなり欠ける事業を並べている印象がある。

#### ○事務局

- ・恒久的な出店を急に誘致するのも難しいので、空き家を活用し、チャレンジショップができればと考えている。事務局が考えていたのは、小さいショップをたくさん出すイメージではなく、ひとつの場所に期間を区切って出店して頂くイメージ。

#### ○委員長

- ・それに対する需要はあるのか。

#### ○事務局

- ・神社の再建に向けて、飲食店を出したいという相談が数件ある。これがダメになった場合は次の手を打ちたい。

#### ○委員長

- ・そうであれば、美里蔵周辺エリアの施策としてではなく、伊佐須美周辺エリアに美里蔵周辺も含める形で示した方が良いのではないか。
- ・チャレンジショップをメインの事業とした場合の需要、効果、継続性がどれだけあるのか疑問に思うので、美里蔵周辺も含む伊佐須美神社周辺エリアの中のいくつかある施策のひとつとして位置付けた方が良いのではないか。
- ・本来はもう少し強い事業があると良いのだが。

- ・チャレンジショップは大都市では良い。せいぜい会津若松市くらいまで。市関係のチャレンジショップはこれまで2回実施した。卒業して店舗は4軒で、内コロナ後に残ったのは2店舗程度。働き方改革や副業の流れで全国的に見て、自分で商売したい人は一定程度いると思うが、その一方で、社会的要因により閉店しているケースも多い。リスクを伴うものなので、やりたい人が次から次へと出てくるわけではない。
- ・会津若松市の事例だが、神明通り商店街の会津あきんど館を数千万円の補助金を使って建て替えたことがあった。完成してすぐコロナになり入居者が撤退してしまい、今もその状況が続いている。今年度、作り替える予定だが、シェアキッチン等一部は残すものの、創業支援の施設にはならない予定。それを考えると、会津美里町でどれくらいの需要があるのか疑問がある。
- ・この計画を見ていて、優先順位の付け方が違うと思う。まずは環境整備として民間が商売したいなあと思うような整備を行政主導で実施する。そこに、民間が入っていくという形。今の計画では、官が机上の空論で考えたものに対して民の意見を聞いて、どう考えるか、という内容に見える。
- ・もっと、民間が食いつくような環境整備をもう少し考えて優先順位をつける必要があると思う。

#### ○委員

- ・チャレンジショップは創業支援までやるイメージよりは、コバコのようなレンタルキッチンでのワンデーシェフや、ポップアップストア、スモールビジネス、小商売的なものを民間がよれば良いと思う。チャレンジショップよりは軽いイメージ。

#### ○事務局

- ・資料にも記載しているが、副業のできる範囲のものを週末に空き店舗等を時間貸しして、家賃をみなでシェアするという意味合いのチャレンジショップを想定している。初期投資を抑えて始めるスモールビジネス。マルシェ出店者に参加してもらうとか、農家から軽トラ市等の出店意向があるが、そのような方に参加してもらうなど考えている。民間が参入しやすく敷居を低くするという意味合いでのチャレンジショップと考えている。

#### ○委員長

- ・チャレンジショップに来る人は創業したい人。週末に趣味程度で来る人は少ない。それはチャレンジショップとは言えない。そうであれば、お店をやりたい人に安く場所を提供する施設を作ります等の言い方にした方が良い。

#### ○事務局

- ・それは何と呼ばば良いのか。フリーマーケットか。

#### ○委員長

- ・マルシェも同様の意味合いがあると思う。
- ・チャレンジショップという言葉ではなく、美里独自の名前にしてしまえば良いのではないか。
- ・チャレンジショップは最初から創業する意思があるものの、事業計画が煮詰まっていな人がやるもの。創業者支援の枠組みの施策として、全国的に浸透しているので、もっとゆるくやるのであれば、違う表現をした方が良い。チャレンジショップというとハードルが上がってしまうのではないか。例えば、週末だけやるなら、週末マルシェとか。

#### ○事務局

- ・ウィークエンドショップか。
- ・潜在的な創業希望の方を支援する場所。例えば、カフェなどを作って、そこに住民が集まる。そういったものを美里蔵周辺の空き店舗等を活用してできればと考えている。

#### ○委員長

- ・そういったものを導入する場合、何でも対応できるよう設備を整備しなければいけない。シェアオフィスやシェアキッチンや猪苗代等いろんなところでやっているが、結構ハードルが高い。
- ・その点も含めて、説明できれば、聞く側も納得する。
- ・議員であれば、チャレンジショップをやって出店する人がいるのか聞いてくるのではないか。
- ・町のイメージは、マルシェの出店が年数回と限られてもったいないので、マルシェ以外の時期にお試し出店ができるスペースをまちなかで提供するものと理解している。それはチャレンジショップではないので、もう少し取っつきやすいネーミングにした方が良い。その方が計画を読んだ人がワクワクすると思う。

#### ○事務局

- ・事務局の意向として、元々町にある補助事業で、創業意向のある個人事業主に対して支援を拡充していくという狙いが根本にある。空き店舗等の利活用と合わせて、店舗展開が期待できる方への支援も一部含まれている。本来は、お試し出店のようなものは含めていなかったが、どこまで創業したい方がいるか不明確だったため、対象の幅を広げる意味合いで、チャレンジショップという言葉を使った。

- ・ただ、チャレンジショップが固定的な意味合いを持つ言葉であれば、赤文字で民間の取組と書いているが、これにつながるようにしたいと考えている。

#### ○委員長

- ・町がこれをやりますよ！と言った時に、どれくらい人が集まるかの根拠を示せばよい。マルシェの延長でチャレンジできるというのであれば、実際に出店者にそのような意向のある方がいるので、その人たち向けてこの施策を作り、さらにその先には創業支援という補助メニューもある、という説明の順番であれば良いと思う。
- ・ただ、創業支援補助金も実際にあまり使われていない実態がある。そのために、チャレンジショップをやろう、それにどのような人が応募するか、そのような説明ができないのに、このような計画を立てて、しかも KPI を立てて、計画倒れにならないか。そのようにならないようにして頂きたい。

#### ○事務局

- ・創業支援補助金については、空き店舗等の利活用ということで、基本的には考えていた。マルシェの展開に応じて、キッチンカーの購入補助の創設も含めて考えていきたい。
- ・基本的には、マルシェ参加者を支援する形で、町内の利用者にも合わせて募集をかける形で、実態を把握しながら、意向を踏まえた形で進めて行ければと考えている。

#### ○事務局

- ・町民を集まる場所をつくりたいという思いから、空き家を活用したチャレンジショップとなった。最終的には、食べ飲みできる場所を作り、人が集まる拠点となる場所を作りたい。そのひとつとして、キッチンカー等も導入していくことを考えている。まちなかに飲食店がなくなり、どんどん人が集まらなくなっている面もある。

#### ○事務局

- ・チャレンジショップについては、良く言えば複合的、悪く言えば曖昧な言葉を使ってしまった。総花的な施策を全方位的に展開しているという印象があることは否めないと思う。チャレンジショップという表現については、「空き店舗や空き地等を利用して、多様な出店を促す」等の説明に代えたい。今後、空き店舗を使って、お店ができそうな段階になったら、チャレンジしたり魅力的なものを作ったりしていくことが重要で、そこでチャレンジして頂く環境を整える必要があると考えている。

#### ○委員

- ・チャレンジショップがいいかどうかの前に、空き店舗の利活用した時に、今の商店街の全体の雰囲気からいって、流行っている店が入ったとしても、日々の商売が成り立たないと思う。土日だけ売れてもしょうがない。365日売れないと商売は成り立たない。空き家で商売するようなものではなく、若松や郡山など遠方からも来るような、よっぽど集客性のあるお店や施設が来ないとだめではないか。町がいくら補助金を出しても続かなくて止めてしまうのではないか。

#### ○委員長

- ・優先順位を考えようというのはそういうことである。人の流れも変わらないなかで、店やりたい人を募集して手が挙がるものなのか。チャレンジショップとなると、創業したい人が選んでくれる場所なのかを考えた場合、環境整備、人を呼ぶという施策をまず持ってきて、第2段階としてチャレンジショップをやってみようという流れが良いと思う。

#### ○委員

- ・チャレンジショップという表現は計画のあちこちに出てくる。P16の用語説明のところで、一般的な説明ではなく、美里なりの言葉で表現できれば良いのではないか。
- ・チャレンジはいい意味だが重い言葉でもある。ワンステップ（一歩踏み出す店）、トライアル等。意味合いをもう少し軽くし、ニュアンスを変えて説明ができれば良いのではないか。
- ・チャレンジショップの拡充については、大通りで商売している立場の意見としては、大通りはとにかく駐車場が少ない。どこに車をとめたらよいか聞かれる。観光駐車場は遠くて案内できない。安心センターも駐車場のせいか分からないが、移転した。空き店舗をどれだけ整備しても駐車場がないとどうにもならない。
- ・マルシェは賑わっているが、無理にねじ込んでいる状態で、事故が起きないか心配。ただ、たくさん店が増えて、人さえ呼べばよいというのはどうか。
- ・マルシェを今後継続していく場合、同じ店の出店だと飽きられてしまう可能性がある。また、単価が高いので、子どもたちだけで遊びに行っても楽しめない。
- ・つまり、誰をターゲットとしたマルシェか、子ども楽しめるものか、キッチンカー等が充実したマルシェなのか、手作りマルシェなのか、毎回特色を持たせたテーマにするなどの工夫をぜひ考えてほしい。
- ・今でもマルシェは人が多くて駐車場が満車なのに、大きくなるとどうなるのか。その点、回遊支援策等でどの程度まで町は考えているのか。

- ・空き店舗の利活用については、現在は貸し出していないが、貸したい人もいる。貸すことによりどのくらいの収入が得られるかと、貸主は何を準備するは良いかなど、貸す側への支援も必要である。

#### ○事務局

- ・貸主が貸しやすくできるように、空き地を活用して駐車場を整備できればと思う。壊すにも補助金を出すなどして、近いところに駐車場を作ることができるのではないか。他地域の事例で駐車場管理をエリアプラットフォームの収入源にしているところもある。貸したり壊したりできるような環境整備を進めていきたい。

#### ○事務局

- ・町としては、民間主導で進めていきたいと考えている。空き家等情報発信、改修や解体の支援など、行政にできることは進めていきたい。
- ・計画においても示している通り、駐車場の対応も整理していきたい。
- ・今後、民間主体となり町と連携して、エリアプラットフォーム（以降、エリプラ）という形で具体的なところをつめていきたい。エリプラでの具体的な取組に影響がないように、町の計画である本基本計画はあっさりかつ網羅的になっている。

#### ○委員長

- ・商店街では現在連携して何かやっているか。売り出しなど。

#### ○委員

- ・売り出しセールは各店舗に任せている。
- ・商工会として、商店街の方に自分たちでもやれるという自信をつけてもらおうという趣旨でマルシェを実施している。そうすると、外からもやりたい人が出てくるのではない。元気じゃないところには人が来ない。

#### ○委員長

- ・マルシェに対する商店街の受け止めはどのような反応か。

#### ○委員

- ・売上に影響があったかどうかはよくわからないが、最初は人が来過ぎて驚いた。道路を横断したり危ない面もあったが、人が来てくれるのは嬉しいこと。

#### ○委員長

- ・商店街でイベント等をやる意義は、商店街が儲かるため。人が来ただけでは実施する意味がない。商店街もマルシェの実行委員会と連携して一緒に作っていくというような仕組みづくり、環境づくりが必要。
- ・例えば、大通り沿いに駐車場をお客様に案内すれば、マルシェに向かってお客さんが歩く。その時に、お店の中に入ってもらい、買い物してもらえような魅力づくりを商店街として頑張ってみるとか、そういった連携が必要ではないか。人がたくさん来ただけで終わってはもったいない。

#### ○委員

- ・会津若松市の十日市もマルシェみたいなものだと思う。会場向かいの商店では、普段扱っていない食べ物などを売って、結構売上があったと喜んでいて。高田ではマルシェのために特別な商品売っているといったような様子は感じられない。

#### ○委員

- ・店によって考え方がちがう。
- ・当店の場合は、一昨年11月のマルシェに開催した際、土ごぼうを売った。マルシェのお客さんは持ち歩きたくないので、1-2本単位で買えるように小分けして、特徴を説明して売ったところ、若い人でも買ってくれた。今年は問合せもあった。歩道が狭いから見えていってくれる。やり方次第では儲けることもでき。積極的な姿勢が必要だと思う。

#### ○委員長

- ・イベントをやる場合は、目的をまずつめる。商店街でやる場合は、リピーターや新規のお客さんに来てもらうためのきっかけづくりと位置付ける。そのために、イベントの景品を商店街のお店の商品にすれば、必ずお店を利用する。
- ・関わるかどうかは店によって考え方が違うので、関わるのは任意でよいが、商店街として関わるかどうかは必要。足を運んでもらえる仕掛けづくりは今後の課題と言える。

#### ○委員

- ・昨年度のワークショップで出店したいと思える商店街にしないといけないという話をした時に、七日町も20年かかったので無理だと言われた。

#### ○委員長

- ・30年前である。今の会長が青年部の時に、有志数名が尽力した。お金もかなりかかった。

#### ○委員

- ・この計画が10年計画であり、また、高校生のアンケートでも高田はさびれたまちという意見が多かったが、そのような場所で、空き店舗にお金をかけて人がくるのか。それなら会津若松市や郡山市へ行くのではないか。実際に会津若松市で出展する美里の人もいる。チャレンジショップを作っても、今の状況で誰が来るのか。代わる代わる入居すれば良いが、それは簡単ではなく、現実的ではない。
- ・昨年町に、出店者に設備の支援などするのか聞いたところ、商売で個人の利益に関わることはしないと言っていたので、キッチンカーの件など町の姿勢はずいぶん変わったと思う。
- ・キッチンカーはいいが、その場合空き店舗はどうするのか。
- ・空き店舗をつぶして駐車場という意見もあったが、土地が細長いので車を止めにくい。一軒つぶしてもしょうがないのではないか。
- ・公民館跡を駐車場にすると、お店などができないのではないか。
- ・須賀川は大きくマルシェをやっている。100店くらい。テーマを決めてやるのもいいし、数を集めるのもひとつの手だと思う。

#### ○事務局

- ・町でできることは限られているので理解を頂いたうえで、計画は基本的には民間の活動を支援する位置づけのものである。具体的には、今後、商店街や町民などからなるエリプラで話し合い、できることから少しずつ進めていければと考えている。賑わいづくりは町だけでなく地域の皆さんに真剣に考えて頂くことを重要と認識している。頂いたご意見をふまえてまとめていきたい。

#### ○委員

- ・須賀川のマルシェは10年くらい前に若者数名が小さく始めた。地道に活動してこまできた。同じような商店街の空き店舗活用やスタートアップの事例として、参考にしたい。
- ・そのような下地が会津美里町にあるのかという話。エリア別で書くとこのような切口になってしまうが、もう少し全体で見て、伊佐須美神社にチャレンジショップに物産店があれば、観光客が来るので良い。出店者をどう呼ぶかは、新しい考え方や環境整備等が必要だが、お客さんが来るという下地があれば、必然的にチャレンジショップも成立するのではないか。エリア別になるとこのようになってしまうが、核を作ることが大事ではないかと思う。

#### ○委員長

- ・環境整備が必要というのはそのこと。七日町は街並みを売りにするということで整備し、人が来た。それにより民間が観光客をねらったお店を出したいとなった。そういった点を飛ばして今の状況で人は来ない。
- ・仮にどこかにまとまった駐車場があり、そこから回遊して歩いてもらうようにするには、歩いて楽しい街並みを作らないといけないが、それには商店街の努力も必要。誰が計画を立てるかという問題ではなく、その点もう一度考え直していく必要がある。
- ・マルシェは今は美里蔵の前でまとまってやっているが、商店街との融合性を考えるのであれば、商店街全体を会場と捉えて、空き店舗にマルシェの店舗を入れるなどの方法も考えられる。こういったことを課題として今後皆さんと意見を出し合いながら、良いものにしていければと考えている。

#### ○委員

- ・旧公民館跡地については、一番最初の町民アンケートの時、全天候型の子どもが遊べる場所という案があった。これはどこかにいってしまったのか。

#### ○事務局

- ・現在の庁舎は複合文化施設で、旧公民館に代わる要素を一定程度整備したという観点がある。旧公民館跡地については、資料にある通り暫定的な利用を想定している。今後、地域のニーズを踏まえた実証実験を行いながら、活用方法を検討していきたい。施設整備はこの10年間では実現困難のため、これまでのアンケートやワークショップのご意見も踏まえながら検討していく。当面はトレーラーハウス等、仮設の施設で対応していきたい。

#### ○委員

- ・今後、全天候型の遊び場をぜひ考えてほしい。子どもたちは夏は暑く、冬は雪で遊具で遊べない状況。

#### ○事務局

- ・先ほどのご指摘も踏まえ、p31 伊佐須美神社周辺の部分について、伊佐須美神社周辺と美里蔵周辺を一体的に整備するとの表現に改めたい。

#### ○委員長

- ・エリアを分ける必要性はあるのか。

#### ○事務局

- ・当初から3つのエリアを設定していたが、旧あやめの湯エリアを外したため、2つのエリアとなった。計画では3つのエリアで設定していきたい。

○委員長

- ・アンケートからも伊佐須美周辺を何とかしてほしいとの意見が最も多かったので、周辺エリアも含めて、伊佐須美周辺としてぎっくりくった方が良いのではないか。今の計画だと最もアンケートで意見の多かった伊佐須美周辺が2番手に見えるので。
- ・書いてある内容も同じなので、まとめて良いのではないか。

○副委員長

- ・エリアで分けて考えた方が分かりやすいのかもしれないが、先程も意見があった通り、もっと全体的に見た方が良いのではないか。
- ・p27などに、全体を一体的に検討していくといった説明を加えれば良いのではないか。

○委員長

- ・駅前のことは触れないのか。

○事務局

- ・旧公民館のページで少し触れている。
- ・旧あやめの湯については、お配りした資料にもある通り別冊とし、基本計画には含めないこととする。

○事務局

- ・あやめの湯については、廃止・解体の方向。利活用策として出ていた、コンビニジムの誘致や子どもの遊び場については、あやめ荘の活用可能性と並行して、別エリアでも空き店舗等を活用により検討していきたい。

○委員

- ・p40表8施策の体系の「小中学生が遊びや勉強できる場づくり」は、旧公民館跡地にも関連すると思われるので○を入れておいた方が良い。

○委員長

- ・エリプラとは何か、具体的な役割は、みなさん理解できるのでしょうか。
- ・すごくふわっとした表現で、エリプラをよく知らない人が見たら、分からないと思う。民間主体とあるので、作った後は民間にお任せなのか、そうではないのか。民間と行政の関係性が分かるようにした方が良い。
- ・これ見れば分かるというものにした方が良い。

○事務局

- ・ここでは一般的な表現で入れているが、高田に置き換えた形で修正する。

(2)「エリアプラットフォーム」のメンバー募集について

○事務局

- ・エリアプラットフォームは、今回の協議会メンバーを中心とした民間によるメンバーで構成される組織でそのメンバーを募集する。
- ・エリアプラットフォームの構成メンバーは地域のプレイヤーで、マルシェ等の活動をしている方や区長さんなど地域のために動いている方を構成メンバーとして想定しており、個々で頑張っているものをまとめあげるのがエリアプラットフォームである。
- ・メンバーが同じ方向を向いて、ひとりひとりの個性を活かしながら、例えば今やっているイベントやまちの課題を解決するなど、みんなで一緒に取り組む。
- ・これに行政も参画し、民間から必要な支援等の意見を頂いて、協働で進める。
- ・有志の方に参画頂き、みんなで話し合いながら、まずはマルシェを起点に取り組んでいければと考えている。
- ・エリアプラットフォームでは、基本計画と同じく、10年計画の未来ビジョンを作成する。未来ビジョンは、エリアプラットフォームが10年かけて賑わいをつくっていくためのもの。民間が主体となるため、より自由な発想やスピードが期待できる。それに対する行政の対応は、基本計画に整理する。
- ・募集対象は、現在未定だが、まずは協議会メンバーを中心に参加頂き、どのようなメンバーを入れていくべきか、メンバーで検討していければと思う。
- ・エリアプラットフォームは年度内に立ち上げ、未来ビジョンを公表する。基本計画に民間の取り組む内容も盛り込まれているので、それを未来ビジョンに落とし込んだものを作成、公表し、来年度から動き出すようにしたい。
- ・事務局も民間が担うが、事務局が出来るまでは、商工観光係で対応していきたい。
- ・後日、個別にご意向を伺うので、参加頂ける方には設立メンバーになって頂きたい。

○委員長

- ・そもそも、連携しましょうというものとして作られたもの。お役人が作ったものであるが、うまく予算を使って、美里らしいエリアプラットフォームを構築すれば良い。
- ・エリアプラットフォームはいろんな団体などが集まり、協力、連携するものと理解しているが、立ち上げる団体は、地域で活動する団体（商工会、〇〇実行委員会等）の連携をサポートするものなのか、エリアプラットフォーム自体がイベントの主体となったり、町の施策の受け皿になったりするものなのか。

○事務局

- ・両方だと考えている。エリアプラットフォームが利益を上げないと続かないと考えている。町や商工会からの委託や補助金が財源になると思うが、それ以外に自主事業をやっていく必要がある。例えば、空き家等のマッチングやふるさと納税の企画提案をできれば良いのではないか。本来行政が担っていた部分をエリアプラットフォームが受けられると良いのではないか。

○委員長

- ・それを中心に動かしていく人はタウンマネージャーのような知識やアイデア、推進力、巻き込む人望が必要。そういう人をおいてまわしていく想定か。

○事務局

- ・須賀川もそうだが、町内にそういう方がいるのが理想で目指すところだが、現時点では、マルシェを起点として、活動しながら少しずつ体制を整えていくことを想定している。

○委員長

- ・PDCA を回して、内容を変更していくのは、エリアプラットフォーム主導ということか。

○事務局

- ・そのような認識である。

## 5 その他

○事務局

- ・本日頂いたご意見を反映し修正したものは、2/10 庁議後にお送りする。その後パブリックコメントを予定している。

○委員長

- ・資料の文字が小さくて見えないので大きくしてほしい。

○委員

- ・未来ビジョンは今年度中作成とあるが、協議会が作るのか、エリアプラットフォーム設立メンバーが作るのか。骨子案はできているが、タイトなスケジュールである。

○事務局

- ・ エリアプラットフォームメンバーが主体となる。
- ・ 2月中旬頃から1週間～10日程度、募集をかける予定。その後2月下旬頃に手を挙げて頂いた方に集まって頂き、1回目の会合を実施し、骨子案を元にした未来ビジョンの案を提示させて頂き、計2回程度会合を開いた上で、3月下旬予定の第4回協議会までに、未来ビジョンを概ね策定できればと考えている。情報共有の観点から、協議会で提示できればと考えている。

○委員長

- ・ メンバー募集はどのようにするのか。

○事務局

- ・ この協議会メンバーにまず呼びかけて、設立メンバーを決めたい。その後、メンバーを追加していきたい。

○委員長

- ・ 広く募集するのではなく、最初は協議会からとのこと。後から入ってくるのは拒まないとの認識で良いか。

○事務局

- ・ その認識である。

○委員

- ・ p49、PDCAについて。10年計画だが、毎年あるいは2年に1回程度、評価や検証を実施する体制も整える必要がある。どのような手法で評価検証していくのか等含めて。
- ・ 町長はこの計画について、どれくらい気にしているのか。

○事務局

- ・ 町長にはこの計画を説明済みである。本計画は、基本方針を示す第5章が肝であり、これを実行することが大前提である。
- ・ エリアプラットフォームも未来ビジョンを毎年見直すものと認識している。その中で、行政による基本計画との整合がとれない場合も出てくるのが想定される。その場合は中間年度にとらわれず、町としても見直し等対応していきたい。

○委員

- ・ 例えば、評価委員会の代表が町長に提案するというものがあると良いのではないか。

○事務局

- ・現時点では、評価委員会のような場を想定していなかった。来年度については、エリアプラットフォームにて進捗状況を見ていき、評価委員会等については今後検討したい。

○委員長

- ・エリアプラットフォームが民間主導はいいが、当面、3年とか、町が伴走する形で一緒にやった方がよい。事務局は民間におきつつ、町も一緒にやった方がよい。伴走しながら徐々にひとり立ちしていく形。その中で、PDCAで回していく際の検証や、町の考え方との擦り合わせができる。手放しにしない体制づくりをお願いしたい。

○事務局

- ・3年程度については、官民連携まちなか再生推進事業も活用するが、その受け皿がエリアプラットフォームであり、町も一緒になってやっていくつもりである。

○委員

- ・p21 問題点の部分、「町内の自慢のものを・・・売買できる場所がない状況」とあるが、「ない」という表現はどうなのか。物産館のようなまとめて買えるような場所がない、ならばよいのだが。広く認知される場所等の表現にできないか。

○事務局

- ・一堂に介してというような意味合いだった。表現については検討する。

○委員長

- ・ひとつの場所に建物を作って売るのは時代遅れ。商店街全体がデパートみたいな考え方があれば、このような表現は出てこないだろう。

6 閉会